

100年企業を訪ねて

～長寿企業のたゆまぬ努力とその魅力に迫る～

File 09 / 医療法人慈正会 丸山記念総合病院

開設128年。 岩槻の人々の健康・幸福を支える、 信頼の医療拠点として

まるやま まさのり
丸山 正統

丸山記念総合病院 理事長

1965年さいたま市(岩槻区)生まれ。順天堂大学医学部を卒業後、東京大学付属病院で勤務医を10年務める。2000年、丸山記念総合病院に入職。産婦人科医として子宮鏡手術では、地域以外の診療所からも患者紹介を受け診察している。2023年より同医療法人理事長。



遠く明治時代から、「岩槻のお医者さんといえば丸山さん」と頼りにされていた丸山家。地元の人の中には、親子三代にわたって赤ちゃんをとりあげてもらった方もいるといえます。少子高齢化や人手不足という逆風を受けながらも、いつでも安心の医療拠点として歩み続ける同院理事長・丸山正統医師にお話を伺いました。

任じて、日々患者さんと向き合っています。

また丸山記念総合病院は、TRFのメンバーとして一世を風靡したダンスパフォーマー・SAMの実家の病院として知られています。現在はコロナ禍の影響で中断していますが、SAMの考案した健康促進ダンスを、妊婦さん向けに改した「ダレデモダンス マタニティ」も話題を呼びました。

明治以来の医師の家系 岩槻の医療を支えて

記録に残る丸山家の祖先は、江戸期に勝浦から移ってきた丸山龍八という侍で、岩槻藩で役人を務めていたようです。明治に入って私の曾祖父にあたる丸山五郎が内科医となり、1896年に丸山醫院を開設しました。以来128年、丸山家の子孫の多くが医者となって、診療科目を広げてきました。

父・正義が代表を務めた時代には「地域に根差し、大学病院に負けないような医療を」をモットーに地域医療に貢献してきました。

130周年をめざし、逆風に 打ち勝つ病院経営を模索中

病院の経営をするにはとても難しい時代です。丸山記念総合病院があります岩槻区は、人口約11万人、高齢化率30%以上という地域になります。

医療を取り巻く環境の変化は目まぐるしく、地域に求められる役割を分析し強化させることが求められております。当院は、突然の傷病に対応する急性期医療の病棟と、急性期の治療の後、安心して退院できるようにリハビリを行い退院調整をする回復期病棟（回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟）の機能を有します。

また、さいたま医療圏において、婦人科疾患と乳腺疾患に関して、患者シェアが高い病院ですので、その強みを生かしながら、今後の体制を考えていこうと考えております。

当院は2026年に開設130周年を迎えます。記念すべき年と、さらにその先の未来に向かって、まずはクリニック・診療所をはじめとした近隣の医療機関との分業・連携を進め、地域医療を支える存在でありつづけたいと願っています。

最前線の医師として 実直に、そして親しみやすく

私もまた幼い頃からそんな家族の姿を見て育ち、当然のように医学の道に進みました。専門は産婦人科で、日々の診療を行っております。

医療は日進月歩ですから、最前線で実務を積みつつ、学び続けなければなりません。いつなんどき、どんな患者さんが来ても、プロの技と知識をもって診察できる病院であること。地域に良質な医療拠点であること。それが病院の使命であると



丸山五郎と正(10歳)と正次(6歳)
(明治40年5月26日)



開設当時



現在の姿